がせ（百合若）

按じるに輪寶船といふことで、船に輪寶（次條を見よ）形の水を彈く裝置した船のことであらう。和漢船用集に、「輪舫。後太平記に輪舫には急輪の水彈火生輪を用と見えたり、從軍詩に連舫隊三萬艘、注に六韜に曰、武王討を伐時河に出呂尚右將たり、四十七艘の舫を以て河を蹈と見えたり」とある。

*りんぼう　因果の小車の輪の輪寶に刻みつけ（鐘丸）　りんぼうの岩を割り醉象の荒れたる勢（國性爺後日）

〔輪寶〕轉輪聖王の感得せる寶器の一。旋轉・應導・威伏の一切の諸德を具有し、聖王遊行する時輪寶自ら輒進して、土地を平坦にし障碍を破碎すといふ。

*りんもじ　御かもじ　樣りんもじにまづお暇といふ離、圍ひ置かれし下邸（松風）　品よく墓へ墓ふとて誰かりんもじ輪丁花（釋迦）

〔倍文字〕倍氣の文字詞、倍氣。文字詞は足利時代の末期、朝廷式微にして供御のもの備はらない爲に、女官等その名を呼ぶを忌んで何もじと言うた隱語より起つたといふ。釋迦如來誕生會のこの文に「輪丁花」とあるは、ちんちやうげ（沈丁花）を訛つて、「倍文字りん丁花」と頭韻を踏ませたのである。

*りんね　輪廻の塵の置古し（卯月淵色）　輪廻を離れぬまうぜいの雜兵（弘徽殿）　過ぎし事を輪廻深く言ふ氣はさらさら無いものを（薩摩歌）　十藏秋を振切つて、エエ輪廻したる女かな（田世景清）　戀とゆかしは迷のはじめ、逢ひた見たさは輪廻の業（三世相）

〔輪廻〕衆生は此處に死し彼處に生じ、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道に輪轉すること車輪のめぐるが如きによつていふ。よつてまた輪廻妄執といひ、輪廻を妄執、執念の意にいふ。弘徽殿鵜羽產家のここの文につきては、「春は梢に咲くかと待ちし云云」をも見よ。

る

*るふ　道犬親子は世間流布の重罪、上を犯すといひ只今の始末諸人の見せしめ（反魂香）　賴平殿の今宵討たれ給ふとは、世間のるふに隱れなし（關八州）

〔流布〕世に弘まることを、水の諸方に流れ布くに喩へた語。世評。うはさ。

るりいろ（三世相）

〔瑠璃色〕瑠璃の如き色、卽ち紫色に似た紺色。

るねえふ　清和天皇の後胤足利の類葉斯波左衞門尉源義將（雪女）

〔類葉〕親類の末裔。

るねせつ　縲絏にいましめずんば忽ち國のやぶれとなる（浦島）　御繼母持統天皇を押籠め縲絏に苦しめ奉れば（持統天皇）

〔縲絏〕縲は黑索、絏は攣の義。支那では往古獄中に黑索で罪人を拘攣したによつていふ。論語・公冶長篇に、「雖レ在二縲絏之中一非二其罪一也」。

るねせん　鬼界が島の流人歸洛の船はいづくまで參りしぞ、るねせんなどはなされずか（平家女護島）

〔類船〕回類の船。共に連れ立つ船。鷹凱波に「類船か一やうに散る川柳」とある類船も、水面に一樣に散り浮ぶ川柳の數葉を連れ立つてゐる船にいひなしたのである。

れ

れいぎよ　唐土の聖代にも囹圄と名づけて國を治むるそなへとする（浦島）

〔囹圄〕牢獄。風俗通に、「周曰二囹圄一、囹令也、圄與也、言令二入幽閉思愆、改レ惡爲レ善」。

*れいし（用明天皇）

〔令旨〕「りやうじ」と訓むべきである。東宮・中宮・親王の御詞を文書に認めるをいふ。太平記大全・六に、「令旨。リヤウシ、シの字は濁りてよむ、文選・三十六注云、秦法皇后太子稱レ令、命令也と、又通鑑綱目・第三曰、張晏曰太子稱レ家、故曰レ令、又三十八云、太子之命謂二之令一」。

*れいじん（聖德太子）（三世相）

〔伶人〕舞樂を奏る人。樂人。左傳・成公九年の條に「伶人」とありて、左氏會箋に「冷氏世掌二樂官一而善レ之、故後世名二樂官一爲二冷官一、釋文云、依レ字作レ伶、……呂氏春秋・古樂篇、昔黃帝令二伶倫作一爲律、……」。書言字考節用集・人倫門に、「干字文註、伶倫伐レ竹造レ管吹レ之、因號二樂人一云」。

れいぜい（淨瑠璃文中の註記）

〔冷泉〕淨瑠璃節の一なる冷泉節をいふ。世事百談に「淨瑠璃の節に冷泉また三重などいふ名目くさぐさあり、そは皆よりどころある事にて三河國矢矧の長が淨瑠璃姫に、牛若丸の繼せし事を十二段に作りし物語に、節附をして語りけるに、かの物語の更科・冷泉諸共にといへる、侍女の立ち出づるところの、冷泉といふ文句の節を、冷泉といふ節の名となれり」。

*れいならず　行房朝臣の御臺所御心地例ならず（隅田川）

〔不例〕違例に同じ。病氣をいふ。源氏物語・空蟬の卷に、「例ならぬ人侍りて」など見えてゐる。

*れいみん　上一人より公卿大夫、下黎民に至るまで（嬉戲天皇）

〔黎民〕黎は黑の義。民の首皆黑いが故に黎民といふ。庶民に同じ。書經・堯典に、「黎民於變時雍」。

れいりん　れいりん舞樂の聲ならで、耳にも觸れず目にも見ぬ賤女山樵の戲歌（持統天皇）

〔伶倫〕伶人（その條を見よ）に同じ。樂人をいふ。伶倫はもと支那古代の樂人の名。呂氏春秋・古樂に「昔黃帝令二伶倫作一爲律云々」。

*れいれい　華鬘寶鐸瓔珞は西吹く風にれいれいと、いとど殊勝さ限りなし（三世相）　識情天地れいれいとして朽ちぜぬものよ（天智天皇）

〔麗麗〕はなやかな貌。明らかな貌。俚言集覽に、「れいれい。明らかなる意なり、レイレイたり、又レイレイとして居るなどいふ。」

れいろう　八面玲瓏と明かに（用明天皇）

〔玲瓏〕光のすきとほる貌。白居易の詩に、「樓閣玲瓏五雲起」。

れうかい　油掛町八百屋伊右衞門淨土宗の願ひ人、了海坊の談義に打込み（脊庚申）　先年了海和尙衆生濟度の說法を此の所にて說き始め、